



## 「親としての役割」

仲野 好重

### プロフィール

1985年 聖心女子大学文学部卒業(心理学専攻)、その後渡米。  
1992年 米国セントルイス大学大学院より心理学における哲学  
博士号Ph.D.取得。  
研究テーマは「親子関係における機能的分析の日米比較」。  
2000年 大手前大学社会文化学部教授、現在に至る。  
尼崎市教育委員長、西宮市家庭教育振興市民会議委員など幅広く活躍されています。特技はタップダンス、パーテンティング、人々を楽しませること。

### ◆ 役割の変化

私たちは、子どもが生まれた瞬間から、親になります。また親と一口に言っても子どもがどんどん成長していくなかでその役割は変わっていきます。幼稚園の子どもはまだかわいい。小学生になると憎まれ口を言うようになり、おませにもなります。さらに中学生になると、特に男の子はがらっと変わります。道ですれ違っても親を無視する。友達が一緒ならなおさら知らん顔をする。小学生から中学生になる頃を「思春期」といいます。その頃は子どもたちの心がすごく揺れ動く時期です。皆さん、自分の「思春期」の頃を思い出してください。親の言うことをすべて聞いていましたか？ 10のうち8はイヤって言いませんでしたか？中学生・高校生は親の言うことに反対したくなる、それが普通です。親の言うことを「はいはい」ときく。そのほうが異常！……。

自分の意見を言ってもらわねばならないし、親に反抗・喧嘩してもらわなければなりません。それが無い子どもは「アダルトチルドレン」(\*子ども時代を子どもとして過ごすことが困難だったまま大きくなった人)になってしまいます。換言すれば、いつも親の顔色ばかり覗<sup>うかが</sup>っている、自分を失くした子どもになってしまいます。

テーマに述べている「親の役割」はその時期、時期で変わります。また小さいときに習ったこと、躰<sup>しつけ</sup>られたことは、かなりの割合で残ります。

これから子どもにとって大事なこと、親にとっても大事なこと、また取り戻せるものと、取り戻せないものがあるということの話をしていきます。

教育学者ドロシー・ロー・ノルトの詩「子ども」をご存知ですか？ 雅子様が愛子様を出産された際に、皇太子様ご紹介され有名になった詩です。

批判ばかりされた 子どもは  
非難することを 覚える  
殴られて大きくなった 子どもは  
力にたよることを 覚える  
笑いものにされた 子どもは  
ものを言わずにいることを 覚える  
皮肉にさらされた 子どもは  
鈍い良心の 持ち主となる  
しかし、  
激励をうけた 子どもは  
自信を 覚える  
寛容に出会った 子どもは  
忍耐を 覚える  
賞賛をうけた 子どもは  
評価することを 覚える  
フェアプレーを経験した 子どもは  
公正を 覚える  
友情を知る 子どもは  
親切を 覚える  
安心を経験した 子どもは  
信頼を 覚える  
可愛がられ抱きしめられた子どもは  
世界中の愛情を感じとることを 覚える

どうですか？ 詩を読んだだけでジーンときません。親や周りの大人から批判ばかりされて育った子どもは、自分も非難することを覚えます。殴られて大きくなった子ども、また今虐待で問題になっていますが、脅しを掛けられて言うことを聞かされた子どもは力に頼るようになります。皮肉にさらされた子どもは「良心」がにぶくなります。

「良心」で何でしょうか？ 困っている人や間違っていることに会った際、その方の役に立ちたいと思う心、それはおかしいと思う心が良心です。2歳半位で「良心」が芽生えてきます。具体的な例を挙げれば壊れているおもちゃを見ておかしいと思う。これが良心の芽生えです。物事のこうあるべき姿が分かっている。これを素直に育てることが良心を育てることです。3～4歳で交通ルールを教えます。子どもはこれを潔癖に守ろうとします。でも親は赤信号で子どもを連れて渡す。このことは子どもの心の中で何が起きているのでしょうか。子どもの心の中は混乱し、良心は触れます。

しかし、詩の後半は力をもらえます。尼崎市の小学生に聞いたことですが、親に言われて一番嫌なことは「早くしなさい」「まだ出来ないの」「あんた愚図やね」です。

子どもはその時どう思うのでしょうか。「分かっているのに」「今しようと思っていたのに」と思っています。人には個人差がありますし、子どものテンポと大人のテンポとは違います。また寛容とは悪いことをしたとき、「いいよ」と言うのとは違います。悪いことをしたときは叱らないとだめ。ポイントは「待つこと」です。今は待てない時代になっています。「賞賛を受けた子どもは 評価することを覚える」、即ち、出来たときは、しっかりほめてください。出来ないときにほめては駄目。子どもは敏感に感じ取ります。

#### ◆「アメリカの親子」と「日本の親子」

アメリカへ留学していたときにアメリカと日本の親の子への関わりを研究しました。4～5歳の子どもの親の関わりは、日本とアメリカでは違います。レゴを子どもに作ってもらい、親はそばに居て子どもからSOSが出たときだけ手伝う。という指示をしてその結果を分析して論文を出しました。

アメリカの親子は子どもに自由にやらせて、親はリラックスして椅子に座っている。子どもが分からないと言っても、親は「分からないの？考えてごらん。」と言い、手を出さない。子どもは何度も試行錯誤を繰り返す。ようやく子どもが出来ると抱きしめ、そして誉める。

日本の親子は「さあ、始めるわよ。」と母親が仕切り、子どもがいうことを聞かなくても促す。子どもが違うレゴを持つと、「ママはその色嫌いよ」と遠まわしに間違いを教えます。ほとんどの日本のお母さんは待てないのです。アメリカ人の親子が1時間掛かるところが、日本人の親子は15分で終わり、しかも全員正解です。

日本のお母さんに聞くと、「間違えたら子どもが自信を失くすから教える」と言われますが、それは違います。親に教えてもらって出来ても自信にはなりません。また60組の内、半数の母親はビデオを意識し、子どもに「ママどう？」と聞く、子どもは「綺麗だよ」と答える。子どもは親に気を使っています。親は無意識に子どもに頼り、子どもに評価させている。子どもは親のためにと思って口を出し、手を出し、出来たら誉める。子どもは実感として「頑張っ<sup>て</sup>出来た。100%楽しんだ」という意識がなく、親の言うことに気を使って受け入れて楽しんでいる。そういう現状が見えてきます。

#### ◆フェアプレーの精神

次に「フェアプレーを経験した子どもは公正を覚

える」とはどういうことでしょうか。「フェアプレー」って何でしょう？ ずるいことをしない。勝っても負けても正々堂々と戦う。一生懸命やって勝った人には賞賛を贈る。負けて悔しくても次に頑張ろうと思う。これがフェアプレーの精神です。このことは教えてください。「ずるくてもいい」では困ります。人間は教えなくてもどんどんずるくなります…

ジャン・ジャック・ルソーが言っています。人間は生まれたときが最高に純粋で高潔な状態で、だんだん持っている素晴らしいものが汚されていく。そこでルソーは、これではいけない、「自然に帰れ」と言いました。私はそこまで極端なことは思わないけれど、長く生きていくと世のしがらみがついてきます。歳をとれば、自分を律していかないといけなくなる。子どもは生まれたときは純粋な、不正義・不正に対しておかしいと感じる本能をもらっています。それを育ててください。しがらみにがんじがらめになったとき、元の純粋な心に引っ張ってくれるのは小さいときに身についた純粋さです。今、子どもたちはそれを磨いているのです。

#### ◆基本的信頼

次に「友情を知る子どもは親切を覚える」、「安心を経験した子どもは信頼を覚える」、このことはとても大事なことです。親としての役割の深い部分です。例えば、赤ちゃんはどうやってお母さんとコミュニケーションをとっていますか。赤ちゃんはどんなことでも泣いて教えます。お母さんは泣き方で何をしたいか感じます。これはお母さんたちが持っているすばらしい能力です。赤ちゃんは、泣けば母親が来てくれると思うから安心して泣くのです。

第一次世界大戦直後、イギリスでは戦災孤児の施設である乳児院を急遽作りしました。幼児1,000人を保母さん10人で世話をするというときがありました。オシメ替え、授乳は時間を決めて行い、泣いても、喚いても時間が来ないとしてもらえない。仕方がないので、赤ちゃんは泣き寝入りをする。これを何回か繰り返すと赤ちゃんはうつろな表情になり、頭を壁にぶつける等のおかしい行動をするようになります。これが「ホスピタリズム」、いわゆる施設病といわれるものです。

イギリスでは、これを反省して赤ちゃんの心理状態を研究するようになりました。適切な対応をしていると、赤ちゃんは泣けば来てくれると感じる。無意識に泣き方を変え、安心して泣き、安心してむずがる。これが信頼に繋がるのです。このことを心理学の言葉で「基本的な信頼の構築」と言います。イギリスの施設のように親の身勝手に育てられると絶望感に苛まれ、おかしい行動をする。一人一人の泣きに対応して世話をすることが、毎日毎日積み重なり、基本的信頼感が芽生える。これがないと大人

になって人が信じられなくなります。赤ちゃんのときの対応のされ方の違いが、10年後、20年後に出てくるのです。

子どもは、叩かれても、殴られても親元から逃げません。何故？ 人間として人生の最初の信頼を親に持つからです。親を信頼できないのは、死ねと言われることと一緒。それが本能なのです。虐待されても無視されるよりはまし。捨てられるよりいじめられる方を選ぶ。けなげに親を信じたいという切なる叫びがあるのです。カウンセリングをしてもなかなか元に戻らない。親に代わるカウンセラー、保母はいないのです。

アメリカでの事例では、虐待やいじめを受けた子どもの何パーセントかが「多重人格症」になっています。多くの別の人格をつくり、その人格たちに辛い思いを引き受けてもらうという恐ろしい心の病です。また現代病の一つです。

少しぐらい怒っても親子関係は崩れません。一番大事なことは、「いざというときにはいつも見ている

よ、ちゃんとあなたのそばに居るよ」と、伝えることです。

#### ◆社会へ送り出す

最後に「可愛がられ 抱きしめられた子どもは世界中の愛情を感じて覚える」

子どもは皆さんの元で一生を過ごすわけではありません。大人になり世間に出て行きます。その時に外に出ても大丈夫なしっかりした温かい心を持った人を送り出さないとはいけません。子育ては一大事業です。皆さんは素晴らしいことをしているのです。

もし今までの話しで何か思い当たることがあれば今からでも実行してください。大丈夫です。子どもをよく見る、よく聞く、よく触れることをしっかりやれば、絶対大丈夫。叱っても大丈夫。子どもが手元を離れて社会に出て行くときに、自信を持って送り出してあげてください。それが親の役割だと思います。そのための努力だと思います。



### \* 講演終了後の参加者との質疑

Q：小学6年生の男の子。最近よく反抗します。また喧嘩したら2～3時間しゃべらなくなります。どう接すればよいのでしょうか。

A：今のままでよい。喧嘩もすればよい。子どもが反抗するのは正常。反抗してもらわないといけません。親が怒るのも当たり前です。普通の人間はカッとなります。それでいいのです。腹が立つのは当然のことです。中には腹が立つのが嫌な親は反抗させないように多くの小遣いを渡します。私が東京でカウンセリングをした中学2年生の女の子は月10万円の小遣いを貰っていました。そして毎晩渋谷に出かけ、翌朝5時に帰って来る。親は摩擦が嫌で小遣いを渡し、外にいかせている。一方その子は親から愛されていると思ったことがない。本心は、渋谷まで捕まえに来てもらいたい、怒っても

らいたいといつも思っている。この親は全く自己中心で、異常です。親は、カッカしてもいいのです。体当たりできた子を体当たりで受け止めてください。怒ってカッカとできるのは信頼があるからです。

Q：4歳と7歳の姉妹。姉が妹を嫌いで母親にどちらが好きか聞く。内緒にしておくから正直に言っというと。

A：姉が何故そういう風に言うと思いますか。姉ばかり怒っていないですか？お姉ちゃんにストレスがかかっている。証が欲しいのです。自分ばかり怒られていると思っている。だから「お姉ちゃんは大変だね。」と語り合ったらよい。姉は共感して欲しいのです。そういう言葉を聞くと安心します。大人を扱うように接すると、子どもは違う意味で自尊心をくすぐられ納得できるのです。

## 気軽に相談してください！西宮市での教育相談・青少年相談窓口

#### ◎研修課「スクーリングサポートセンター」

市内在住の小学生から高校生(18歳までの在家庭者を含む)までの子育てや教育について、不安を感じたり悩んだりされている方々のために、教育相談や子育てを支援する活動をしています。お気軽にご利用ください。

#### ◇来所相談

内 容：不登校、情緒不安定、発達、性格上の悩み  
相談場所：研修課 教育相談室(本館2階)(神祇官町2-6)  
申 込 み：月～金(9時～17時) TEL 0798-67-6860  
※北部相談(毎週火曜10時～17時)  
相談場所：西宮市塩瀬公民館(塩瀬センター3階)  
(名塩新町1)

申し込み方法は上記と同じ

#### ◇電話相談

内 容：専門の相談員が電話で相談に応じます。  
日 時：月～金(9時～17時) TEL 0798-67-7562

#### ◎青少年補導グループ「青少年相談」

青少年に関する様々な悩みに対して専任の相談員をおき、解決に向けての助言を行います。相談には来所相談と電話相談とがあります。

#### ◇来所相談

内 容：子どもの問題について来所していただき、問題解決の相談にあたります。  
相談場所：青少年補導グループ  
(江上町3-40 江上庁舎2階)  
申 込 み：月～金(9時～17時) TEL 0798-35-3874

#### ◇電話相談

内 容：子どもの様々な悩みや心配ごとについて、経験豊かな相談員が電話による相談に応じます。  
日 時：月～金(9時～21時)  
TEL 0798-22-8080

## あ★ら★カルト

ユネスコ世界児童画展  
平成18年度フォトコンテスト受賞作品展 & 同時開催!

日時 3月20日(火)～3月25日(日) 10:00～17:00 (最終日は15:00まで)

会場 西宮市立市民ギャラリー 3階(西宮市川添町15-26)

## ◆ユネスコ世界児童画展(主催:西宮ユネスコ協会、西宮市教育委員会)

市内の幼稚園、小学校に通う子どもたちと、姉妹都市をはじめとする外国の子どもたちが描いた絵画を一堂に展示します。絵画の交換を通して国際交流を図ります。(出展数約500点)

このほか、西宮ユネスコ協会では、発展途上国等への識字教育支援のために年賀状などの「書き損じハガキ」の回収を行っています。会期中は会場でも回収しますので、ぜひお持ちよりください。

問合せ/人権教育推進グループ TEL 35-3892



## ◆平成18年度「家族の絆フォトコンテスト」受賞作品展

(主催:西宮市家庭教育振興市民会議、西宮市教育委員会)

今年で8回目。ジュニアの部を新たに設け、H.18.8.1～18.9.30までの期間で作品を募集したところ、【一般の部】32名、【ジュニアの部】8名で71点(40名)の応募がありました。その中から受賞作品23点を展示します。

西宮市ホームページ (<http://www.nishi.or.jp/homepage/katei/>)でも掲載していますので、ぜひご覧ください。

問合せ/社会教育・文化財グループ TEL 35-3868



## 第22回特別展示「西宮の漁師-漁具と伝承-」

開催中

入場  
無料

日時 ～5月6日(日)(※月曜日休館)  
10:00～17:00(※入館は16:30まで)

会場 西宮市立郷土資料館常設展示室

西宮市の海では、地曳き網を中心とする漁業が4つ(西宮、今津、中津、鳴尾)の地域で、盛大に行われていました。しかし、現在ではその面影をとどめていません。郷土資料館では、江戸時代以降盛大に行われ、農業の発展とも密接な関係にあった西宮の漁業について、聞き取り調査や、漁具などの収集を実施してきました。その成果を元に、本展示では4つの地域で使用されていた「漁具」や漁師の方々から伺った「伝承」などの紹介をします。

展示資料:◆4地区で使用されていた漁具等 約60点

◆『兵庫県漁具図解』(関西学院大学図書館所蔵) 2点  
(※漁具図解は3月8日～3月21日のみの展示)

問合せ/西宮市立郷土資料館 TEL 33-1298 FAX 33-1799  
〒662-0944 川添町15-26



## 編集後記

春号は仲野 好重先生に「親としての役割」という演題でご講演いただいた内容を掲載させていただきました。相当のボリュームとなりましたが、何か「子育て」のヒントになりませんでしたか……

次号は「食育」というテーマを取り上げる予定です。(M生)